

特定非営利活動法人サロン 2002

《2014年10月 月例会報告》

ユース年代における7人制ラグビーの現状

第1回アシックスカップ全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会

開催に至るまでと今後の展望

石渡利昭 ((公財)日本ラグビーフットボール協会高校委員会委員長/埼玉県立児玉高校)

川中子修 ((公財)全国高等学校体育連盟ラグビー専門部事務局長/都立町田の丘学園高等部)

【日時】2014年11月1日(土) 17:10~19:10 (その後「ルン」~23:30 ごろ=終電前)

【会場】筑波大学附属高校3F会議室 (東京都文京区大塚1-9-1)

【テーマ】ユース年代における7人制ラグビーの現状

ー第1回アシックスカップ全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会の開催に至るまでと今後の展望

【演者】石渡 利昭 (いしわた としあき)

(公財)日本ラグビーフットボール協会高校委員会委員長/埼玉県立児玉高校

川中子 修 (かわなご おさむ)

(公財)全国高等学校体育連盟ラグビー専門部事務局長/都立町田の丘学園高等部

【コーディネーター】嶋崎雅規 (NPO サロン 2002 理事/帝京高校)

【参加者 (会員・メンバー) 9名】

浦和俊介 (介護職員)、河原工、岸卓巨 (中央大学大学院)、小池正通 ((株)La Esperanza)、小池靖 (サッカースポーツ少年団指導者)、嶋崎雅規 (帝京中学・高等学校)、徳田仁 ((株)セリエ)、名方幸彦 (BRS)、中塚義実 (筑波大学附属高校)

【参加者 (未会員) 3名】石渡利昭、川中子修、山田研也 (筑波大学附属高校)

【ルンからの参加者】安藤裕一

注) 参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません (ご本人の了解が得られた方のみ公開しています)

【報告書作成】浦和俊介

<はじめに>

中塚：こんばんは。サロン 2002 の月例会を最近では錦糸町のフットボールパブ 4-4-2 でやっていたのですが、今日は久しぶりにホームに戻ってまいりました。

任意団体サロン 2002 も 5 月 31 日の設立総会を経て 10 月 14 日に東京都の認可も降りて NPO 法人サロン 2002 として初めての月例会になります。

もともとサッカーに興味関心を持つ人たちで 20 年くらいやっていますが、サッカーのためだけにやっているわけではありません。特にフットボールの兄弟であるラグビーは、もともとわれわれのメンバーで関わっている方も大勢おり、月例会、公開シンポジウムで取り上げたこともあります。今回 7 人制のラグビーの話なので楽しみにしております。

<演者紹介>

嶋崎：今回はユース世代における 7 人制ラグビーの現状ということで今年の 7 月に第一回アシックスカップ、全国 7 人制ラグビーフットボール大会を長野県菅平で開催しました。

大会を開催するまでの経緯とこれからの 7 人制ラグビーの展望ということで今日来ていただいたお二方からお話を伺います。自己紹介をお願いします。

川中子：全国高体連専門部で事務局長をしております川中子と申します。本日は嶋崎先生からアシックスカップの開催の経緯について、高校ラグビーのセブンスの流れや今回の大会について依頼を受けました。

石渡：日本協会の高校委員会委員長を仰せつかっております石渡と申します。今年の 3 月で高校の正教員は退職しましたが再任教員ということで、嘱託で勤務しております。

ラグビーに関しては 35 歳のころから全国高体連にかかわっており、ブロック常任委員をやったり、ここ 15 年は副部長、ここ 2, 3 年はラグビー協会で高校ラグビーにかかわっております。

今日はよろしくお願いします。

サロンについて HP で見させていただきましたが、こういった会が 20 年も続いているのはすごいことだなと思いました。立ち消えていってしまうことが多いのですが話せることを光栄に思います。川中子先生も私も、現場というか大会運営にばかりかかわっていて視野が狭くなっている部分がありますので、むしろ我々からの話をきっかけに意見交換出来たらと思います。

嶋崎：石渡先生は東京教育大学のご出身です（笑）

最初にセブンスの歴史を話していただき、アシックスカップに至る経緯、そのあと実際にやってみてどうだったかをお話いただき、最後に今後の課題と展望をお話しいたします。

ひと通り発表していただいた後、意見交換ができればと思います。

<プレゼンテーション>

1. 日本におけるセブンスの歴史 (川中子)

1) 日本におけるセブンス大会の歴史

まず私の方から高校ラグビーのセブンスの歴史とアシックスカップの運営についてお話しします。

高校のラグビーのセブンスをいつからやっていたのかというと、その前に 93 年に第 1 回ジャパンセブンスが開催され、全国レベルの大会はこれがスタートになるのかなと思います。優勝は明治大学でした。

それから 97 年まで、ジャパンセブンスが行われました。国内チーム（社会人と大学）と海外からのチーム（国代表等）を招待して行っていました。

高校のセブンスはいつからかということ、98 年に第 1 回セブンズ選手権大会ということで単独チームで行いました。優勝は大阪工業大学高校（現常翔学園高校）でした。

1 回、2 回と続いていたのですが、第 3 回開催時、4 月のアタマに第 1 回選抜大会が熊谷で開催され、高校セブンスは同じ期間に行われていたため、選抜大会に参加していない各ブロックの 2 番手校が参加していました。同時開催で高校セブンスは江戸川陸上競技場、選抜大会は熊谷ラグビー場という形で行われました。

それが 2 回続いて 2002 年に、今度は選手権という形ではなく、部員が 15 人そろわない少人数校が増えてきたのでそちらを対象にしたセブンスの大会を行うということで、全国を 9 ブロックに分けてジャパンセブンス 2002、2003 ということで開催しました。

シニアの方は、第 10 回ジャパンセブンス、第 11 回ジャパンセブンスということで開催されていましたが、ここで切れてしまいました。

ジャパンセブンスの高校の部ということで開催してきましたが、高校の部だけは別途、日本協会高校委員会が主催する形で 2004 ジャパンセブンス高校の部、2005 ジャパンセブンス高校の部という形で高校のセブンスの大会だけ続けてきました。

昨年まで 4 月の第二土曜日に江戸川陸上競技場で 1 日で開催という形で続けてきました。

2007 年に日本協会の国体委員会の方から、国体を 7 人制で行えないかという投げかけがありましたが、少年の部は今まで通り 15 人制で行うという意見のまとまりで返答しました。

可能性としては国体を 7 人制にということもあったのですが、結局 2007 年以降も少人数チームを対象にした、普及のためのジャパンセブンス高校の部が続いてきました。

2) セブンスの強化

2009 年にオリンピックに 7 人制ラグビーが採用され、日本協会もセブンスアカデミーを創設しました。第 1 回の招集選手に、当時東福岡高校で、いまは早稲田にいる布巻選手がいます。

翌年の第 3 回のセブンスアカデミーでは、いまは日本代表になっている藤田選手（東福岡高校→早稲田大学）が選ばれています。

このような形で、セブンスはチーム単位での強化ではなく、セブンスアカデミーによる個人単位のピックアップで育成していくかたちでユース年代の強化は進んでいました。

2012 年には IRB セブンスサーキットの東京セブンスが開催されることになりました。

セブンスアカデミーも継続して開催されていて、この年は鹿児島実業高校の桑山選手が、当手中 3 で選ばれております。

3) 高校生年代のセブンスのチャンピオンシップ化とそれまでの状況

一方で高校委員会、全国高体連ラグビー専門部でもチャンピオンシップ、強化のセブンスを立ち上げていかなくてはと検討していきまして、2013 年の会議でジャパンセブンス高校の部を、2013 年限

りを取りやめて、そこで使っていたお金をもとに、全国から 48 チームを集めた大会を開けないかと考えていきました。

費用的にはそれだけでは足りないので、ジャパンセブンスに参加する選手を選んでいた各地域の普及指導講習会の予算も取りやめることにして、二つの事業を取りやめて予算の都合をつけて全国大会を計画していきました。

セブンスの大会としては 98 年から 4 年間単独チームの大会があり、その後少人数校のチームを対象にブロックから選んだ大会が、ジャパンセブンス高校の部として続けてきました。

では少人数校のセブンス以外に各県ではどのような大会が開催されていたのか、資料をお持ちしました。

全国一斉で調査したわけではなく、日本ラグビー協会と全国高体連ラグビー専門部が毎年正月に、今年で 39 回になりますが、指導者講習会を開催しておりまして、そこに参加された先生方から、部員不足に悩む時代になってから各県で新人戦、春季大会、花園予選といった 15 人の大会以外にどのような大会を開催しているのかをアンケートを取りました。

7 人制をやっていると回答されたものを載せてあります。各ブロック 2 名が参加されるので 47 都道府県を網羅しているわけではありませんが、最大で 18 都道府県からの回答となります。

2004 年から北海道はセブンスを行っていたのですが、新人戦、春季大会を 7 人制で行っている県は、少人数のチームが公式戦に出場できないために廃部になることを防ごうという取り組みになります。

今回のアシックスカップのようにチャンピオンシップを競う大会ではなかったのですが、各県での取り組みはなされておりまして。7 人制もしくは 10 人制といった形で、部員数の減少に対応した大会運営を行っておりまして。

7 人制大会の特徴は、多くのチームを集めて 1 日か 2 日で大会が運営できることが挙げられます。

第 1 回の全国大会も、当初は 2 日間の日程で考えておりましたが、雷雨などの関係で 3 日間の開催となりました。

15 人制のラグビーの比較でいうと短時間の準備でゲームができる。

大学のセブンスなどは、最近は春から 15 人制のオープン戦をやっておりますが、かつては 15 人制のための練習としてセブンスが行われました。

ジャパンセブンスが行われていたのですが、経済的な面から途切れてしまいました。高校の部だけは少人数チームのための大会として継続的に開催してきました。

オリンピックの正式種目に 7 人制ラグビーが採用されなければ、このままの形で続いていて、日本における 7 人制ラグビーは日の目を見ることはなかったかもしれないのですが…。

4) 7 人制ラグビーのオリンピック種目化後の議論

今回のアシックスカップ開催に関して一番大きかったのは、オリンピックでの 7 人制ラグビーの正式種目化です。男子だけでなく女子が採用されたので、男子の強化だけでなく女子の強化、高校に女子ラグビー部を作ってもらえるか、作っていかなくてはいけないのではないかと議論が急がれているのが現状です。オリンピックに採用されたことで、東京セブンスにスポンサーがついて国際ゲームが開催され、高校の方もアシックスカップを開催したという流れになります。

オリンピック種目採用により、7 人制ラグビーの普及、強化が叫ばれるようになったのですが、全国高体連ラグビー専門部としても、国体でセブンスをやった方がいいのではないかと議論をしましたが、ラグビーの強化は 15 人制でやるということになりまして、少年の部は 15 人で、成年の部は昨年の東京国体から 7 人制になりました。

4~5 年間、高校の 7 人制ラグビーは、議論をするのだけど実施されないという状況でした。セブン

スアカデミーで中学生、高校生のユース世代の子が集められて強化していくという流れでした。

女子の方も、選抜大会で単独チームを対象とした女子の大会、8月のコベルコカップでは9地域で選抜した選手で行い、そこから選抜して12月27日の花園開会式後のゲームといった形で7人制の強化が行われています。

ざっとですが高校ラグビーを中心としてとして7人制ラグビーがどのように行われてきたかをお話ししました。

5) コベルコカップについての補足

嶋崎：コベルコカップが何なのかについて、参加者の方々がわからないのかもしれないのでお話しただけですか？

川中子：7月末から8月あたりに菅平で、全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会（コベルコカップ）というものを行っております。実はジャパンセブンス高校の部も少人数のチームを対象にしているのですが、このコベルコカップも合同チームの選手、15人集まらないチームの選手を対象にした大会です。各ブロックから1チーム選出してもらって、夏休みに菅平で試合をしており、今年で第10回となりました。

高校ラグビーでは、花園予選は1,2,3年がすべて出場できるので参加選手が一番多い。予選が終わって3年が抜けて新人戦になると部員が15人そろわない、10人、5人しかいないといったチームがたくさん出ます。花園の予選で準決勝やベスト8に勝ち残ったチームでも、新人戦は10人しかいないといったチームがかなりあります。こういったチームを対象に、秋から新入生が入ってくる春まで、15人部員がそろわないチームを対象に、各ブロック、県で少人数の大会を行ったり、講習会という形で選手を選抜しています。

関東では都県別の大会にして、一番勝ち残ったチームを関東の代表として全国大会のコベルコカップに出場させています。

ジャパンセブンスもコベルコカップも少人数のチームを対象にしていたので、ジャパンセブンスを打ち切って、少人数チーム対策としてはコベルコカップが残っていくだろうという形です。

嶋崎：補足いたしますと、コベルコカップは合同チームの15人制大会ということになります。15人に満たないチームに所属する選手を対象に選抜チームを編成して、関東なら神奈川や埼玉と試合をして勝ちあがるとコベルコカップに出場する。筑波大附属高校ラグビー同好会の選手もコベルコカップに参加していますね。部員が2名しかいないラグビー部でも全国大会に出場できるということです。

2. アシックスカップ開催のための日本協会の働き（石渡）

1) 日本協会におけるセブンスについて

先ほど川中子先生がお話しされた歴史を踏まえて、2009年に、2016年リオ五輪で男女セブンスが正式採用されることが決まり、本当に本気でセブンスに取り組みなくてはならないと、ラグビー協会、高体連ともに議論が始まりました。しかしアシックスカップが開催されたのは今年と、5年間かかりました。

話が戻るのですが、川中子先生の話の中で、1993年にジャパンセブンスが始まっています。IRB（インターナショナルラグビーボード。サッカーだとFIFAに相当する競技統括団体）では1993年ごろから、7人制ラグビーをオリンピック種目に持って行こうということで各国協会にセブンスを普及させるようにと補助金を出していました。

その補助金はセブンスの普及に使うものだったのですが、日本協会はそうしませんでした。セブン

スのオリンピック種目採用は2009年、ラグビーワールドカップ日本開催決定も2009年で、それまで日本協会はワールドカップ招致にかなりの労力を割いていて、大人のジャパンセブンスは立ち消えになっていて、唯一IRBの補助金の一部を使って高校のセブンスを開催していました。IRBに対して体裁を整えていたという状況もあります。

2009年に五輪種目に採用されたということで、本気にならないといけないなど。大人のセブンスも東京セブンスが開催され、海外のトップチームを招待して秩父宮で行われるようになりました。

高校の方はアシックスカップを2014年から、高校のトップチームの大会を開催するようになりました。

2) 2019年ラグビーワールドカップ開催について

話が横道にそれるのですが、2019年にラグビーのワールドカップを日本でやることを一般の方に尋ねてみても、ほとんどの方は知らないんですね。

サッカーは上手なのかなと思いますが、非常に認知度が低く、知っている人は10パーセント程度。

国立競技場が改築していますが、こけら落としはラグビーのワールドカップなんです。オリンピックのためではなく、その前にラグビーのワールドカップをやるということもあまり知られていない。

この辺のこともぜひ皆さんからご意見いただければと考えております。

3) 日本協会と全国高体連との交渉と高校生年代のスケジュール問題

アシックスカップ開催の経緯ということですが、5年もかかりました。やらなければならないのはわかっていたのに、なんでこんなに時間がかかってしまったのかというと、高校生年代の過密なスケジュール調整、高体連の共催、後援の絡みもあり3年を要したということです。

ラグビーの全国大会は昨年までこのような予定でした。3月末に熊谷で選抜大会、4月初旬に高校セブンス(少人数チーム対象)、5月にサニックス国際大会。これは前年度花園ベスト8のチームと海外のフランス、ニュージーランド、オーストラリア、イングランドといった強豪国のチームを招待して16チームで福岡で、サニックス財団がお金を出してやっています。

8月には、先ほどあったコベルコカップ(少人数チーム対象)、そして12月に花園の全国大会、そして3月にブロックごとに全国高体連の協賛を受けて普及講習会を開催していました。

この過密スケジュールの中でセブンスの全国大会をどこに入れるのか。どうせ入れるのならこの過密なスケジュールを整理できないかと高体連の中で話がありました。

これらの大会の中で選抜大会、サニックス国際ユース、コベルコカップは大した歴史はありません。選抜は15回、コベルコは10回、サニックスは、かつては協会や高体連がかかわらずに開催していました。

かつては年末に花園の全国大会があつて、3月に普及講習会があつて、春に各ブロックの大会というのが県外の大会だったのですが、ここ10~15年で大会が増えてしまったのです。

役員の方、選手にも負担があるので、少し整理していこうといろいろな話をしました。各県にアンケートを取ったり意見を集約していく中で時間がかかってしまいました。

4) 全国高体連と日本ラグビー協会の交渉について

さらに厄介な組織に、全国高体連というものがあります。高校のスポーツに携わっておられない方には全国高体連とラグビー協会の関係を感じていただくのは難しいと思うのですが、全国高体連はラグビーだけでなく、高校のスポーツ全てを統括している団体です。そこにはいろんな規約がありまして、全国大会は、全国高体連が主催、共催するのは2大会まで、後援は1つというものがあります。

ラグビーは、実は新しい大会を立ち上げるにあたり、それを強引に、ある人物を通してうまく話を通して、後援が3つ、花園の全国大会が全国高体連主催の大会、インターハイでした。普及指導講習

会はブロックごとの開催でしたが、全国高体連の共催をもらってありました。

こんなかたちでやっていたのですが、昨年、全国高体連からこれを整理してもらわなければ困るとい話をいただいております。

普及指導の講習会は、共催を外してブロック毎にやってもらおうということになりました。高校セブンスは発展的解消ということで、アシックスカップになりました。選抜大会を、ほかの競技も同様だと思うのですが、日本ラグビー協会主催、全国高体連共催という形にしました。サッカーの選手権はそうですね。

コベルコカップとサニックスのどちらかで全国高体連の後援をはずせと言われていたのですが、大変労力がかかったのですが、全国高体連の基本問題検討委員会とやり取りをして、サニックスは貴重な国際大会なので認めてほしいと交渉をして認めてもらいました。

5) 全国高体連と競技団体の関係に関して

どこの競技団体でもあると思うのですが、基本問題検討委員会の委員の方が変わると見方がガラッと変わってしまうことがある。規約がこうなっているのに、なぜラグビーに後援が3つも入っているのかと。基本問題検討委員会に、こういう理由なので認めてほしいとその都度説明しているのに、それが急にやめなさいという話が10~15年ごとにぶり返してくる。ラグビーの方でも、全国高体連が言ってきたからしょうがないと簡単に譲っちゃう。認めてしまう。

今回の件はあんまりだろう、ということで、私が基本問題検討委員会に出向いて説明して、サニックスの国際大会は認めてもらいました。

アシックスカップは、サニックスの件で無理を聞いてもらっているのがり押しが効きません。全国高体連の共催も後援なしで、日本ラグビー協会の主催だけでやることになりました。

我々も反省しなければならないのですが、競技団体や全国高体連の一番の目的は、競技の振興だと思います。その競技の普及、活発に行われることが一番の目的ですが、ややもすると規約通りに規制をする立場になってしまう。我々も反省しなければならないなと考えました。

この件についてもご意見を頂ければと思います。

3. 7人制全国大会開催とアシックスのスポンサーシップについて

1) 7人制全国大会開催決定

2012年12月、全国高体連の委員長会議で、2014年7月に7人制ラグビーの全国大会をやることを決定いたしました。

当時私は全国高体連の副部長でしたが、部長と事務局の川中子先生と随分練って実施要項を作りました。

2) アシックスのスポンサーに関して

日本協会の高校セブンスと普及指導講習会の予算を回して開催するというにしました。

翌年5月の日本協会理事会に上げ、日本協会の主催大会として承認していただきました。

そうしたらアシックスジャパンのスポンサーが、日本協会理事会を通した後に急に決まりました。

実はアシックスのスポンサーが決まったのは、ラグビー協会の森会長が、13年の東京国体のラグビー会場で、隣の席がアシックスの社長で、アシックスは世界のトップチームであるオーストラリアと南アフリカの代表のスポンサーをしてラグビーに力を入れています。「何かお手伝いできることはないか」「実は来年、高校セブンス大会をやるのでお願いします」と、二人の話し合いでほぼ決まってしまう、アシックスがスポンサーについてくれました。

今回、スポーツメーカーをスポンサーにつけて大会を運営するということが結構難しいんだなと感じました。たとえばラグビーにはラグビー専門のメーカーがいくつかあるのですが、スポーツメカ

ーがつくとほかのメーカーが会場にブースを出したりできません。プログラムに広告を出すこともできません。

参加者：ボールはどうされたのですか？

石渡：ボールは買いました。

アシックスのスポンサーシップはこれからの時代大事だしやっつけていかなければならないのですが、スポーツメーカー以外なら、たとえば飲料でそのメーカー以外置かないとか、全国高体連はコカコーラがついてますよね。他メーカーのボトルなどはマスキングしてとかありますが。スポーツメーカーの場合はメインにつくと大変なのかなと。日本協会にも電通がついてやっていますが、スポンサーと運営サイドの調整が大変だなと感じました。

4. 第1回アシックスカップの開催（川中子）

1) 第1回アシックスカップ予選について

まず大会の予選ですが、要綱にも挙げたのですが、予選会は各県に委ねるという形をとりました。平成26年1月1日から6月29日までにやってくださいと、長いスパンでとりました。

これはなぜかという、今回の大会以前に指導者講習会のアンケートでも挙げたように、以前から7人制大会を開催していた県があり、3月に開催していたところもあったので、新しい大会を作ることが難しい。基本的には県の高体連の主催大会は年3回まで、東京でいうと新人大会、4,5月に春季大会、9月から秋季大会（全国大会予選）があります。年3回とういうことだとこれまでです。だからこれまでに7人制の大会を開催していた県に関しては、それをそのまま予選にできるようにしました。

今年でいうと4月から平成26年度ですが、3月に予選を開催していた県もありました。6月29日が最後の締め切りなのですが、6月に決勝を持ってきていた県が多かったです。

予選の日程はこのような事情もあったので、各県のラグビー専門部委員長からアンケートを取り、予選はどうだったか意見を聞きました。

4月以前に予選をやってしまうとメンバーが変わってしまう。予選に出たメンバーと本戦に出るメンバーが違うのは問題ではないかというような意見がありましたが、一律4月というのは難しいかな。

チームによっては4月になって新1年生を入れないと、7人ないし10人集まらない。全国大会の最少エントリー人数は10名なのですが、けが人が出た場合を考えると7人制で片方のチームが6人や5人ではまずいだろうと。グラウンドの大きさは15人制と同じなので、7人でやるのも大変なところを6人や5人では無理だろうと。

キックオフの時点で7人確保できることを条件に、10名を最小のエントリー数としました。

ただ地方大会は7人で参加するところも多かったと思います。地方では合同チームでの出場の例もありました。東京都では予選の日程を組むのも困難だったので、単独チームのみの参加としました。

予選に関しては都道府県で日程や参加要項については幅を持たせて実施しました。

2) 予選を開催しての感想

花園の予選はトーナメントで行うので、1試合で終わりのチームがたくさんある。マスコミなどで、高校3年間で3試合しか出られなかったなどと取り上げられることがありますが、負けるチームは当然出るのですが、新人戦1回戦敗退、春季大会1回戦敗退、花園予選1回戦敗退という公式戦3試合しか経験できない選手がいる。

高校の部活動がただチャンピオンシップのみを追い求めるのではなく、教育の一環であるのなら、

試合数がもう少し取れないかという意見を聞いたことがあります。

セブンスの予選に関しては、各ブロックでのリーグ戦のあと、勝ち抜きトーナメントで代表校を決めた県も多くあり、従来の全国大会予選とは違った点かなと思います。

出場チームは 1,000 チームを超えました。登録校は 1,200 校程度あるのですが、約 1,090 校が大会に参加しました。合同チームもあるので参加チームは 800 チーム程度ですが、少人数の学校が大会に参加できたという点では良かったのかなと。

少人数大会や合同チームもありますが、合同チームだと自分の学校のジャージを着て試合に出られない。相手チームのジャージを借りたり、合同チームのジャージを作って試合に出場するのですが、自分の学校のジャージを着て試合に出場することはない。

7 人制ではあっても、自分のジャージを着て公式戦に参加するということも大会の目的の一つだったので、目的がかなったのかなと思います。

5. 第一回アシックスカップ開催で発生した問題

1) 雷による大会スケジュールの変更

全国大会になっての問題としては、実際に起こってしまったのですが「雷」ですね。

初日の 1 時くらいで開催地の菅平が雷に見舞われ、1 時間弱ゲームができなくなりました。1 時間程度待てば試合は開催できたのですが、当初の計画ではハーフタイムを入れて 1 試合 16 分なので 30 分待たせれば 2 試合分待つ。雷が鳴ったら中断してくださいと言って、30 分たって試合再開の見通しが立たない場合は中止しようと考えていました。

雷が鳴って中止して避難してまたアップして準備してとなると 30 分を待機時間として設定したのですが、30 分では雷が収まらなくて 1 時間近く待たなくてはなりません。予選プール戦は 2 試合あるのですが、初日 1 試合しかできなかつたチームと 2 試合できたチーム、0 試合のチームと差が出てしまいました。

当初は予選 1 日、決勝 1 日の 2 日間の日程だったのですが、菅平の日程でミニラグビーの大会と少年サッカーの大会が開催されていてバッティングしてしまい、グラウンドが使えない状況になっていました。金曜日に代表者会議、土曜日予選、日曜日を中日にして海の日の月曜日に決勝という形にして中日を取っていたので急きょ日曜日に出来なかつた試合を持ってきて大会を進めました。

雷の対応は、やってみて 30 分では再開できないなど。1 時間くらい見て再開するように要綱を作っておけばよかったかなと思いました。

雷の対応は予想していたのと実際が違いました。

2) 感染症の問題

数年前に花園の全国大会でノロウイルスが発生して大会を棄権するチームが出たのですが、それ以後、代表者会議では感染症に関する対応について要綱を配っています。

春の選抜大会についても同様の対応です。

今回も、夏だからノロはないだろうと思っていたのですが、感染症に関する対応を考えていました。

花園のものと同様に考えていたのですが（感染者が登録選手の 20%を超えたら棄権する、感染の疑いのあるものは出場停止等）、今回ニュースにもなりましたが集団食中毒が菅平で発生し、中日だったのでお弁当を食べずに宿舎で昼食をとって被害にあわなかつたチームを多かつたのですが、何チームかは弁当を食べて当ってしまいました。

菅平のクリニックは満員で、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、市営グラウンドの前の観光センターの 1 階にあるのですが、診察室から建物の入り口まで、大人や子供が横たわっていたり座り込んで嘔吐していたというような状況でした。

食中毒の対応として、点滴を打つくらいしかないのですが、待っていてもいつになるかわからない。

比較的体力のある高校生は宿舎に戻って安静にして回復を待つ。それでも回復しない選手は顧問の先生が上田の病院まで送ったり、救急車で搬送してもらったりといった状況でした。

菅平のクリニックだけでは対応できない状態になりました。予想していませんでした。

食中毒の疑い、たぶん食中毒だろうということでしたが、月曜日にならないと検査できない。もしかしたら感染症の疑いもある、という保健所からの報告でしたので、対応としては感染症の対応時準じて行うことになりました。

登録選手の中で嘔吐している選手が3名以上いる場合は感染症の疑いがあるということで棄権という対応をしました。

岩手代表の黒沢尻北高校は該当してしまったので棄権ということになってしまいました。

3) 大会の様子

今回の大会をスカパーで放映していただきましたので大会の様子など見ていただけたらと思います。

【アシックスカップ映像上映】

大会が重なってしまったので菅平のメイングラウンドを使わず、Dグラウンドでカップトーナメントを実施しました。

今年は46都道府県と開催県の長野が2チーム、来年より東福岡が前年度優勝チーム。

開会式の選手宣誓は黒沢尻北高校の主将で、ジャージもアシックスで新調していました。

2日目にアニマル浜口親子の講演会が実施され、「気合いだー」と何度も絶叫し、高校生は少し引いていました（川中子）

<トライシーン中心で予選プールのダイジェストを上映>

茗溪学園に土佐塾高校が勝った試合などセブンスならではの試合もありました（川中子）

1人か2人のアスリートがいればスペースがあるのでトライまで持って行けます（石渡）

中塚：勝ち点はどうなっているのでしょうか？

川中子：勝ちが3、引き分け2、負けが1、棄権が0です。

リーグ組み合わせは選抜大会のベスト8をシードにして東、中、西、に分けて抽選しました。

6. セブンスをどう発展させていくのか（石渡）

1) まとめ

私の話はあと5分くらいにしたいと思います。

アシックスカップということで浜口親子を呼んだり、オリンピックを意識して大会を開催しましたが、大会を開催するだけで強化につながるのかと思いました。

実は私はラグビーの全国大会を整理していく中で、選抜大会をなくしてセブンスの大会にしないかと随分言いました。花園が1月に終わって選抜大会が4月、そこまでの3か月を、高校はセブンスの期間にしようかと提案していました。

これはいろいろな絡みがあってできませんでした。埼玉で選抜を開催しているのですが、ラグビーの王道は15人制だというのがあって、何で選抜大会をセブンスにしないといけないのかとバッシングを受けました。特に埼玉からはそれ以外にもありまして、なかなか決断できない。非常に難しいなと。セブンスを本当に普及させるにはそれくらいやらないとダメだなと思いました。

今回のアシックスカップも、予選の1週間くらい前にセブンスの練習を少しやって県の予選をやる。

終わったら 15 人制の練習をやってアシックスカップの前にまた少し練習して大会に臨む。

これではセブンスのレベルアップにはつながりません。

IRB がセブンスをオリンピック競技にしようとし始めたとき、日本にパウロ・ナワルという、フィジーのセブンスの神様と言われた選手でその時 50 歳くらいの方（現在は栃木の白鷗大学コーチ）を呼んであちこちで講習会をやってもらいました。結局ただ大会を開催するだけでなく、セブンスを教える人、日本協会のコーチソサイエティでセブンスを教えられる人がほとんどいないのが現状で、パウロに動いてもらいましたが、最近は講習会を開催する雰囲気もなく、オリンピックに向けてどうしたらいいのかなと思っています。

2) 7 人制と 15 人制の棲み分けについて

二つ目は答えが出ないのですが、15 人制とセブンスをどう棲み分けていくのか。一つの競技団体でこういう二つの種目を両立させていくのは難しいのではないかな。

サッカーのフットサルの話も参考にさせてもらえればと思います。サッカーはフットサル連盟がありますね。日本のラグビーは同じ人間が 15 人制とセブンスを両方やっている。

世界のトップチームは 7 人制専門でやっています。日本のトップは、普段はトップリーグで 15 人制をやって、セブンスの大会の前だけセブンスの練習をしている。

何歳くらいからセブンスの専門に特化していけばいいのかもわからない。

韓国で行われたアジア大会のセブンス代表には 15 人制代表のマイケルリーチが入っていた。指導者のなかでもいろんな意見があって、オリンピック競技になったんだからセブンスを優先させるべきだという方もいる。私はそう思わないのですが、セブンスは日本人に向いているという人もいる。昔ながらの考えで、15 人制がラグビーの王道でセブンスは 15 人制のトレーニングでいいんだという方もいる。15 人制のランやパスのトレーニングにはなりますが、それはまた別かなと思っています。

私はバランスを取ってやっていけばいいのかなと思っています。

3) 女子ラグビーでの 7 人制問題

女子の方は逆転現象が起きていて、競技人口が少ないので、日本ラグビー協会の強化サイドが、オリンピック競技なのでセブンスに特化してやりたいと強く言っています。

現場の女子のコーチたちからは、セブンスばかりやってしまうと 15 人制に適性のある選手がラグビーから離れてしまっているという訴えがあります。

7 人制は、ポジションでいうとフランカー、ナンバー 8、センターといったポジションで身長 180 以上、体重 90kg 程度でスピードがあってパス、キックもできるバランスとの取れた選手しか使えないんです。こういう選手が 7 人集まらないと勝てないんです。

でも 15 人制は、身長は 180 くらいでも 110kg とか 130kg で、走れないけどコンタクトプレーやスクラムの押しが強い選手が使えるんです。でも 7 人制だと試合に出してもらえない。

女子の方は、セブンスばかりやらないで 15 人制も強化しないとダメだという意見が少しずつできてはいます。

実は女子のコベルコカップは 7 人制でやっていたのですが、来年からは 15 人制でやる予定にしています。

アシックスカップを立ち上げたのはいいけれど、セブンスを定着、強化していくにはどうしたらよいか、頭を悩ませている状況です。

以上です。

<ディスカッション>

嶋崎：まずはご質問等受けたいと思います。

1) 少人数制大会について

参加者：いただいた資料の中で、東京は少人数大会は実施していませんが。

嶋崎：以前、東京は 10 人制で大会を開催していました。あと、いち早く合同チームをとり入れていたので 15 人制で大会を開催していました。

中塚：頂いた資料の中では 1993 年に最初の大会を開催したことになっていますが、それ以前にもプライベートな大会はありましたよね。それは協会とは無関係で開催されていたのでしょうか。と言いますのは、大学時代に、ラグビー部の友人がセブンスの大会に行ってきたと言っていたので、どれのことなのだろうと。

石渡：YC&AC のセブンスではないでしょうか。今年で 55 回になります。

2) クラブチームと高校チームの関係

参加者：高校のチームとクラブチームの兼ね合いはどのようなもののでしょうか？ 7 人制をやっているクラブチーム等ありますか？

嶋崎：高校生年代のクラブチームはほとんどないです。北海道バーバリアンズ、三鷹オールカマーズ、神戸シックスとかですかね。

参加者：クラブがないのは大会がないからですか？

嶋崎：アシックスカップは高体連から離れた日本協会主催大会なので、クラブチームも参加できる可能性を持った大会だと思います。高校セブンスから U-18 セブンスになれば、フットサルはそうなっていますね。今後の発展としては、他競技からとか合同チームとかが参加できるようになります。現段階は高体連ラグビー専門部が運営をしていますから高校セブンスになっていますが、U-18 セブンスになればそのような可能性はあるかなと。現状は高校のラグビー部に所属していないと出られる試合はないです。

参加者：15 人制のクラブチームはありますか？

石渡：花園の大会には出られないですが、高校セブンスやコベルコカップ等には出場できたはずですよ。

川中子：アシックスカップはクラブチームでも参加できるように高体連に通しています。ただ高校に通っていないとダメです。たとえば中学時代ラグビーをやっていて高校に進学したけど退学してしまったという子はダメです。たとえば神戸のシックスが人数がそろえば予選から出場できるようにはしてあります。

3) 7 人制ラグビーの魅力

参加者：サッカーを何のためにやるのかというと、勝つためにやっている。日本のスポーツの問題点

は中体連、高体連で3年毎に区切っている。だからクラブチームがいいかなと思っています。
この議論で本当に強いものを作ろうと思ったら、赤ちゃんから20歳くらいまでみられるクラブを作らないといけない。

60年くらいラグビーを見ていて、文京ラグビースクールでも事務局長をしています。私以外はラグビーの経験者で、サッカーと比べてラグビーは何が違うかと言うと非常に明快で、あまり広げようと思っていない。好きな人が好きな人同士でやっている。サッカーは一所懸命広げようとしている。いいか悪いかではないですが、ここが大きなポイントだと思います。

広げようと思ったら、僕はセブンスだと思います。どうしてかと言うと、30数年前に結婚して以来、妻とラグビーを見に行くのですが、彼女がピンと来たのが一昨年のセブンスです。それまでは本を読んでいたりしていたのですが、一昨年の東京セブンスで、グラウンドの前の方に行って練習から見ている。「イケメンで逞しい人がいる」。男性としての魅力がある。やっている人の視点ではなく見ている人の視点ではセブンスは魅力がある。いい面でも悪い面でもありますが、やっている人にはそういう視点はない。

もし広げようとしていくとそういう視点からの議論が必要だと思います。

昨年マンチェスターシティが優勝した時、選手全員が背番号12のユニフォームを着てロッカーから出てきたんですね。サポーターへの感謝なんですね。ラグビーの人に聞いたら「なんじゃそりゃ」って感じの人がほとんどですから。広げようと思ったら、見ている人の視点でやっていくとラグビー、特にセブンスは魅力があると思います。

4) ラグビーの広がりについて

石渡：先ほどからご意見を伺っていてサッカーの方にお聞きしたいのですが、ラグビーワールドカップの認知度が非常に低いというお話をしましたが、ラグビー協会は何とか認知度を上げたいと思っ
ていろいろやっているんです。今はしていませんが、2019年の大会ロゴのピンバッチをラグビー
やっているすべてにつけてもらおうと各県協会に競技人口分配っていたり、ワールドカップのステ
ッカーもすごい量作って配ったりしていますが、みなさんラグビーをやっている方に届いている
んですか？

浦和：そういった物品はラグビーにかかわっている人には届いていると思うのですが、その先には渡
せていないのではないのでしょうか？

5) 論点の整理—3つの課題

中塚：サッカーとの関連でいうと3つくらい論点があるなと思って聞いていました。

一つは高体連と競技団体の棲み分けとかあり方。高体連のお墨付きがほしいというのは教育現
場、とくに地方に行けば行くほどあるでしょう。お墨付きが得られれば生徒は出しやすいし引率の
先生も出やすいという事情があるのはわかります。しかし高体連はあくまで教育の一環として動
こうとする組織なので、年間の競技会の回数も制限を受けるし、一定の枠の中でしか展開でき
ないと思います。

そういう意味で頑張っていかなければならないのは競技団体です。草の根からトップレベルまで網
羅した中でのセブンスや15人制をデザインしていかないといけないと思います。

サッカーではある程度、長い年月をかけて、それができているんですね。

最初にも話しましたが、学校をはじめた連中がクラブを作って、自分たちの大会がないから大会
を作り、自分たちで40年前からずっとやってきているわけで、それがアディダスカップというク
ラブユースの全国大会になっています。それ自体にステータスがあってその先にJリーグがある。
大会があってクラブができたのではなく、やりたい奴らがいればクラブができ、そいつらが大会を作

ったという流れが一つあります。

二つ目はシーズン問題ですね。ラグビーのシーズンはいつなのか。これだけ過密になっている日程をどう整理していけばいいのか。これも我々サッカー界が経験してきたことで、年3回の高体連の大会だけでなくリーグ戦だと言ったとき、リーグ戦をやりながら高体連の大会をどう入れていくのが問題となったわけです。私はこれを、日常と非日常ということで整理します。リーグ戦は日常で、高体連の大会はノックアウト方式の非日常だと。だから負ければ終わり構わない。でも日常は高体連ではなく競技団体主導でやっていく。

とはいっても実際は高校の先生が両方やっていくわけで、大変といえば大変ですが、何年かやっていく中で人材が育つので何とかなるだろうということです。スケジュールの問題も、同じ人が年間通して同じ競技をやらなければいけないのかということも含めてあると思います。

三つ目は15人制とセブンスの棲み分け。サッカーで言えばサッカーとフットサルの棲み分けです。両方やりたい者は両方やればいいし、片方だけやりたければそれでもいい。登録制度についてもU-18年代のフットサルでは色々やっていることがあります。あとでお話しできればと思います。

6) 7人制ラグビーとサッカーの融合について

小池：TVでラグビーの川越東と浦和の試合を見ていたら、川越東の選手は体格がいいのですが、メタボなおっさんみたいな選手もいる。そういう選手でもプレーできるのがラグビーのいいところかもしれないのですが、あれでスポーツ選手と言えるのか、7人制の選手の方がスポーツ選手らしくていいのではないかと感じました。

お相撲さんは寿命が短いといいますが、ラグビー選手で体型と寿命の関連の統計などあるのでしょうか。プレーヤーズファーストで考えるとそういう視点も必要かと思えます。

7人制ラグビーはステップワークが軽やかな選手が多く、サッカーでは欠けている部分。小学校でタグラグビーが普及させる試みがあり、女の子でも工夫しながらグラウンド展開ができるのが良いところ。サッカーを習っている子どもたちにぜひやらせてみたい。サッカーではボール扱いに慣れるまでに2~3年かかってしまうので、グラウンドでどのように走るか、どのように作戦をたてるかという議論をするところまでなかなか至らないのですが、タグラグビーでは女の子でも意見を言って参加している。グラウンドでいろんな人が集まってプレーするというスポーツの神髄がラグビーにこそあるのではないかとおもいます。

タグラグビーも含めていろいろな人と混じってプレーする体験を持った人が増えれば、7人制ラグビーも親しみを持ってもらえるのではないのでしょうか。見ている方からすれば、動きがある7人制の方が面白いと思います。

参加者：サッカーにはベイルという選手がいますね。レアルの。彼はウェールズのラグビーの選手でもあったんですね。ラグビーのプロ選手とも同級生だそうで185cmで90kgくらいあって。

ラグビーとサッカーでくらべると、サッカーは選手が余っているんです。高校生だと試合に出られない選手がたくさんいる。

ベイルは体が強いんです。サッカーでいうと日本の弱点はセンターバックがいないんです。強い奴。サッカーの人はサッカーしか知らない、ラグビーの人はラグビーしかではなくて、サッカーを強くするっていうのもあるのですが、日本の高校生をラグビーに引っ張って強い選手を作ってもらおう(笑)

参加者：今日は7人制ラグビーの現状でどう発展させていくかという議論だと思うのですが、名前に興味がありまして。7人制ラグビーなのかセブンスなのかセブンラグビーなのか。

石渡：日本協会ではセブンズというようにしています。

参加者：15人制は海外ではユニオンですね。海外では13人制のリーグラグビーもあって普及していますが、日本ではリーグを飛び越えて7人制が出てきています。

サッカーでは95年にFIFAがフットサルと決めてくれたので迷わなかったのですが、7人制は日本で普及させていくには競技名から入っていかないといけないのではないのでしょうか。オリンピックは7人制ラグビーなのかセブンスなのかどちらなのだろうと自分では思っています。何かいい名前を決めて普及させていくのがいいのではないかなと思います。

石渡：名前って大事ですね。7人制って言っているのは日本だけですね。

参加者：7人制って競技の亜種って思われますね。オーストラリアに行くとユニオン、リーグ、オージーボールもあるからラグビーが3つもある。

石渡：ユニオンのラグビーは15人制と7人制ですね。

参加者：フットサルもファイブ・ア・サイドって言っていたのをフットサルにしたんですね。

嶋崎：最後にご発言いただいていない山田先生どうぞ

山田：サッカーは広がっていく中で底辺の拡大をしっかりやっていましたが、ラグビーはそこまでできていない中で7人制も15人制もというのは難しいと感じています。両方やっているところはニュージーランドやオーストラリアなど限られたところで、日本が真似しても無理だろう。なぜ日本でこの議論が出たか考えるとオリンピックの種目になったからで、日本人はオリンピックに弱いから。正直現状で7人制の強化を進めるべきか疑問があります。やっぱり底辺を拡大して地道にやっていくしかないと考えています。

嶋崎：ありがとうございました。それでは今回発表していただいたお二方に拍手をお願いします。

以上 続きは「ルン」で…